

アカデミックフェス 事後レポート

企画名： アカデミック×プロフェッショナル

－理論と実務の架橋教育を求めて－

企画名（英語）： academic × professional

－ Search for the bridge education of theory and practice －

時 間： 10：20～11：40

会 場： アカデミーコモン アカデミーホール

登壇者： 第 1 部 池上彰（ジャーナリスト）

第 2 部 池上彰

土屋恵一郎（明治大学長）

吉村孝司（専門職大学院長・会計専門職研究科長）

源由理子（ガバナンス研究科長）

木村哲（グローバル・ビジネス研究科長）

高倉成男（法務研究科長）

長畑誠（ガバナンス研究科専任教授）

開催概要：

公共政策・ビジネス・会計・法務の4領域を擁する本学専門職大学院の実像を広くPRするとともに、ジャーナリストの池上彰氏を招いて、プロフェッショナルの使命と魅力および可能性に関する基調講演を行い、さらに本学学長および本学専門職大学院4研究科長を交えたシンポジウムを催し、理論と実務の架橋教育という新たな教育展開を社会に発信する。

開催概要（英語）：

The purpose of this session is to promote Meiji Graduate Schools of Professional and give a keynote speech by Mr. Akira Ikegami and a symposium. The symposium on search for the bridge education of theory and practice is held by Mr. Ikegami, Keiichiro Tsuchiya, Koji Yoshimura, Yuriko Minamoto, Satoru Kimura, Shigeo Takakura and Makoto Nagahata.

開催内容：

本企画は2部から構成され、第1部においては、ジャーナリストの池上彰氏がNHK時代から現在にいたるまでの自身の取材経験を通して、プロフェッショナルとしての視点と心構え、姿勢、行動の重要性を解いた。特に常に現場に自らが出向き、現場の空気の中かで真実を正確にとらえることがプロのジャーナリストとして不可欠の要件であり、

これからの時代におけるプロフェッショナルの重要性と必要性を解説した。

続く第2部においては、池上氏に土屋学長、吉村、源、木村、高倉の各研究科長が加わり、長畑教授の進行のもとで、これからのプロフェッショナル教育の重要性と方向性、そのためへの明治大学の挑戦をテーマとするシンポジウムを行った。

シンポジウムにおいては、まず各研究科長による「理論と実務の架橋教育」観を示し、続いて各研究科の教育の特長およびプロフェッショナルの育成に向けた所見を示すとともに、各研究科が育成するプロフェッショナル像を示すとともに、プロフェッショナル教育における課題と、現代社会の諸要請への対応、国際社会に適應できる人材の育成、法務及び会計領域における高度専門資格保有者の育成といった、本専門職大学院の可能性と将来性についてアピールした。また学長からは本専門職大学院における多様な学びが、日本社会全体にとって有効な“却来”の場であり続けるよう、本学としても努めたいとのコメントが示された。

これらを通じて、「理論と実務の架橋教育」という専門職大学院の固有の目的に則した本学の新たな教育展開の実態について広く社会に発信した。

以 上